

ミライを創る

椎葉村地域おこし協力隊



the most beautiful
villages
in japan

椎葉村
宮崎県

「秘境」と呼ばれる村

そんな村だからこそ創り出せる未来がきっとあるはず

「世界に誇れる村を創り出したい」

そんな思いを持つ仲間を増やしたい

私たちは「地域おこし協力隊」にそんな思いを持っています

椎葉村の「地域おこし協力隊」の特徴

椎葉村の地域おこし協力隊の特徴は以下の3つです。

- ① 目的は椎葉村への移住・定住
(役場の人手不足の解消ではありません。椎葉村の未来を創るためのチャレンジミッションです。)
- ② 副業OK！むしろ推奨！
(どんどん稼いで、定住に向けた基盤をつくりましょう)
- ③ 賞与有り。有給休暇多め
(業務外の事にもお金や時間を使えます)

※平成27年から現在まで15名が着任しています。

「地域おこし協力隊」に期待すること

これから移り住んでくれるあなたには、少しだけこんな事を期待しています。

① 椎葉村ならではの魅力の発見と共有

(あなたの感受性で教えてくれた魅力が地元民の自信になります)

② 柔軟な発想と今までにない視点

(ここには何もないから…というあきらめを揺さぶるアイデアを)

③ 新しいネットワークと実行する力

(あなたの家族や友人知人、スキルや職歴にこの村をかけ算すると?)

椎葉村地域おこし協力隊募集要項

<p>必須要件</p>	<ul style="list-style-type: none">① 年齢: 応募時点で20歳以上45歳未満の方② 性別: 問いません③ 住所: 現在、三大都市圏をはじめとする都市地域に居住し、委嘱後、椎葉村に生活拠点および住民票を移動できる方で、椎葉村に1年以上住む事が可能な方④ 資格等: 普通自動車運転免許(AT限定可) パソコン(ワード、エクセル、パワーポイント等)⑤ 健康: 心身共に健康で、誠実に職務を行う事が出来る方⑥ その他: 地域おこしに意欲があり、地域になじむ意思のある方
<p>活動時間</p>	<p>週40時間</p> <p>椎葉村では「独立」「起業」を視野に入れた自主活動や仕事を推奨しています。そのため、勤務時間での定住に向けたミッション以外の副業に繋がる活動も可能です。起業準備や資格取得、農林業、地域活動など独自の活動を積極的に行ってください。</p> <p>また、活動時間はミッションの内容により設定する事が可能です。</p>

椎葉村地域おこし協力隊募集要項

<p>雇用形態・ 期間等</p>	<ul style="list-style-type: none">・地域おこし協力隊(会計年度任用職員)として椎葉村長が委嘱します。・委嘱時期は原則として、令和2年4月1日としますが、相談のうえ調整します。・当初委嘱期間は、委嘱の日から1年間としますが、その後は活動実績等を踏まえ1年毎に更新し、最長で委嘱の日から3年まで延長します。
<p>給与等</p>	<p>給与:月16万6千円程度(2年目、3年目は若干の昇給有) 賞与:月額給与相当額を年2回 活動経費;活動費として予算の範囲内で交付します。(用途や額などを踏まえた申請手続きが必要です。対象費用等は担当者と協議のうえ決定します)</p>
<p>待遇・ 福利厚生</p>	<ul style="list-style-type: none">・社会保険(雇用保険、健康保険、厚生年金)に加入します。・住居は村があっせんします。家賃は村が負担します。・活動用の車両およびパソコンは村が貸与します。 ただし、車両は共用となり、空いていない場合は、個人車両を使用し、走行距離等に応じて費用弁償します。・隊員が兼業を行う場合には、村長へ届け出と許可が必要となります。

椎葉村地域おこし協力隊募集要項

応募手続き	<p>応募受付期間:令和2年2月6日17時必着 提出書類:継ぎの書類を椎葉村地域振興課に郵送又は持参してください。 応募用紙(下記URLからダウンロード出来ます)</p> <p>申し込み・お問い合わせ先 〒883-1601 宮崎県東臼杵郡椎葉村大字下福良1762-1 椎葉村役場地域振興課 企画グループ TEL 0982-67-3203 FAX 0982-67-2825 Mail shiibachiiki@gmail.com</p>
選考の流れ	<p>審査方法</p> <p>①一次選考 書類審査のうえ、結果を通知します。 (場合によってはWEB面談を行います)</p> <p>②二次選考 一次選考合格者を対象に面接を行います。 なお、交通費・宿泊費等は自己負担とします。</p>
事前体験	<p>椎葉村の状況や具体的な募集内容を現地で確認したい場合はお試し体験事業を行っています。詳細は次項をご覧ください。</p>

地域おこし協力隊お試し体験事業

興味があるけど現地でみてみないと不安・・・
採用されても自分が思ってたのと違ってたらどうしよう・・・
こんなミスマッチを無くすためにお試し体験やっています！

椎葉村地域おこし協力隊に関心があり、応募を行う前に、椎葉村はどういう所かとか募集内容の現地での詳細な説明、先輩隊員や移住者との意見交換などを行いたいという場合に、現地までの旅費の半額(上限5万円)を助成します。

実施前	(体験希望者) 椎葉村地域おこし協力隊に関心があり、当事業の申請を行う場合には、実施の10日前までに椎葉村役場地域振興課まで実施申請書にて実施申請を行う
	(椎葉村役場) 上記申請内容を審査のうえ、採択決定通知を申請者に通知
事業の実施	(椎葉村役場) 体験希望者の申請内容に応じて、体験希望者と連絡をとり、体験の準備を行う。
	(体験希望者) 椎葉村役場担当者と打ち合わせを行い、椎葉村への体験を実施
実施後	(体験希望者) 体験完了後、1ヶ月以内に旅費に関する領収書等を添付のうえ、補助金交付申請書および請求書を提出
	(椎葉村役場) 交付申請を審査のうえ、交付決定を行い、補助金を交付

えんがわ食堂

縁側のような、日常的に人と人が気軽に会食のサービスを生み出す

椎葉村松尾地域は「仙人の棚田」と呼ばれる棚田景観や映画「しゃぼん玉」のロケ地として脚光を浴びています。映画「しゃぼん玉」では、作中に出てくる郷土料理は地域の人々が作られたもので、好評を得ました。

そんな地域が新たに「食のサービス」を行う人材を募集しています。

地域の人から郷土料理を学びつつ、高齢者向けの配食サービスの展開や、観光客向けや地域住民向けの食のサービスを考えています。

地域のシンボル「大イチョウ」の里で、人々を笑顔にする「食のサービス」を行ってみませんか？

ミッションに役立つ経験

食に関する業務、営業職
プランナー／イベーターなど

三年間のロードマップ

- ① 自分の生業と地域ニーズがマッチした食のサービスの探求
- ② 生業として展開するための計画・実践

協力者

○地域の人々

みんな、地域愛があり、親切な人々です。

○特に関わりが深い可能性がある人々

特産品加工グループメンバー

下松尾棚田保全の会

公民館役員など

秘境de農業

九州中央山地の自然に囲まれた中で農業を学んでみませんか？

椎葉村は高冷地を活かしたミニトマトやホウレン草、デルフィニュームなどの花といったビニールハウスでの園芸や和牛の繁殖経営が盛んです。自然溢れるこの地で熟練農家の指導で学び、冬期の農閑期には6次化など、自立に向けた取り組みを行い、自立した新しい農業スタイルを創ってみませんか。

農業就業の際には基盤整備されたハウスや牛舎等をリースで借りれるなど移住者ならではの農地の確保の問題も心配ありません。就農するためのフォローアップはどこにも負けません！

三年間のロードマップ

- ① 熟練講師の指導でしっかり農業の栽培知識や経営について学ぶ
- ② 農閑期の生業について取り組む

協力者

- 指導農家
経験豊富な農家さんです。
- 先輩隊員
現在まで2名が講習を受けており、副業も含め色々と教えてくれます。

【ミッション案の背景】

「えんがわ食堂」

- 松尾地区では地区計画で、高齢者などへの配食サービス構築を立案
 - 加工グループ等の人々はやる気がある一方、長くは続けられない。
 - 若い世代は就業をしていて、なかなかそこに関われない。

- 「仙人の棚田」が注目を浴び、観光客向けおよび、松尾地域内でも食のサービス(食堂的)ニーズが発生している。
 - 「下松尾棚田保全の会」や庄屋跡整備などに携わる「大イチョウ太鼓」による観光客誘致体制が進んでいる。

配食サービスはボランティア色が強く、世代交代にも時間がかかる。

観光客や地域住民向け食のサービス提供を行いながら、配食にも携わり、世代交代のメインとなる人をつくり、地域の人々の協働体制へシフトしていく流れをつくる。

食のサービスにおいての設備など(例えば、庄屋跡地やふれあいセンターなど場所を選ばず営業できるキッチンカーなど)はクラウドファンディングなどを活用した資金調達を目指す。

【ミッション案の背景】

「秘境de農業」

- 高冷地であるため、九州を市場とした高冷地園芸が順調に伸びている。
- 椎葉村の環境を活かした産業として自立可能である。
- 農閑期は椎茸や狩猟など、自分にあった副業を行っている。

こうした状況である一方、施設(ハウス)栽培が前提であるため、土地と資金がハードルとなり若手の育成が進まない。

このため、ベテラン農家の指導による技術習得を行う。さらに村でハウスを整備し、リースで栽培が始められる事から、資金や土地のハードルがなくなるという施策を開始した。

農閑期は椎茸栽培や狩猟などに取り組むことも可能であるため、そうした分野の後継者育成にも繋がる。